

① 水平社宣言(原文)を読んでみよう

水平社宣言  
すいへいしゃせんげん

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

ながあいだ きょうだい かはんせいきかん おお ひとびと  
長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってな  
われら た うんどう ありがた こうか もた  
された吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが  
われわれ またほか ひとびと つね にんげん ほうとく い ばつ  
吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等  
にんげん いたわ ごと うんどう おお きょうだい だらく こと おもえ このさいわれら  
の人間を勤るかの如き運動は、かえて多々の兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の  
うち にんげん そんなこと みるか かいほう もの うんどう お  
中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ  
ひつぜん  
必然である。

きょうだい われわれ せせん じゆう びやうどう かつこうしゃ じっこうしゃ かいきゆうせいぎく  
兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴望者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の  
ぎせいしや おごこ さんぎやうてぎじゆんぎやうしや かわ は ほうしゆう なまなま  
犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々し  
にんげん かわ は と しんぞう さ だいしやう あたたか にんげん しんぞう  
き人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、  
くだ ちやうしやう つば は のろわ よる おほこ う  
そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る  
にんげん ち か われわれ ち う にんげん かみ ろう  
人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうと  
じだい おう ぎせいしや な かえ とき き じゆんぎやうしや けいかん  
する時代にあつたのだ。犠牲者とその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠  
を祝福される時が来たのだ。

われわれ こと ほん う とき き  
吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

われわれ ひくつ ことば きやうだ こうい せせん はずか にんげん  
吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆して  
はならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勤る事が何んであるか  
し い われわれ こころ じんせい ねつ ひかり がんぐらいせん  
をよく知ってゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讚するものである。

すいへいしゃ うま  
水平社は、かくして生れた。

ひと よ ねつ にんげん ひか  
人の世に熱あれ、人間に光りあれ。

たいしやうじゆうちねんさんがつみつか  
大正十一年三月三日